

「御朱印」集め

最近、お寺や神社の「御朱印」集めがブームだとか。実は観光寺社だけでなく、身近な所でもいただけることをご存じでしたか？ 個性的な御朱印で注目されている南田中の観蔵院を訪ね、副住職にお話をうかがいました。



副住職の小峰智行さん

観蔵院 練・南田中4-15-24



観蔵院の御朱印

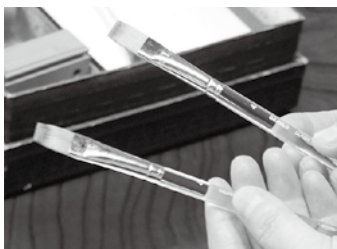
ありますが、多くは筆文字で、上に梵字、下に仏様のお名前を入れるパターン。

「一般的な和筆ではなく、刷毛（はけ）のような平筆で書いているのが珍しいのかもしれない。見た目がきれいですからね」

確かに、アート作品のような美しさで迫力があり、人気があるのもうなずけます。実は小峰さんは梵字の「エキスパート」。大学で学生に教えたり、新しくお坊さんになる人の指導をしている方なんです。

この刷毛書きの梵字を書くための平筆を見せていただきました。

「使いやすい物を選んでいきますが、筆先の固め方や手入れの仕方に



梵字の刷毛書きに使っている水彩画用絵筆

は、かなりこだわりがあります（笑）
御朱印帳のサイズは大きく分けて2種類あるため、筆の先を固める幅で文字の太さを調整し、使い分けているそうです。
「墨が溜まると先が割れてしまうので、洗い流して乾かし、固める作業を定期的に行っています。ストックも必ず一式用意して、良い状態にしておく。書く量が多く消耗が激しいため、月に1回くらい替えています」

御朱印の起源は納経印？

ところで、そもそも御朱印とは何なのでしょう。誰でも気軽に求められるものなのでしょうか。

「元々は『納経印』といって写経を納めた証で、霊場めぐりの際には納経帳を持って回っていたようです。霊場といえば四国八十八か所が有名

人気の秘密は

こだわりの「梵字」？!

遠方からも多くの人が訪れるそうですが、人気の理由とは？

「最初は、観蔵院のご本尊である『不動明王』を住職が漢字で書いていましたが、ご本尊を

梵字（ぼんじ）で書くのは意義のあることだと言われ、15年ほど前から私が梵字で書くようになったんです」と、小峰さん。

御朱印の中央の文字は、不動明王を表す梵字のひとつで、「カシマン」と読みます。梵字が書かれている御朱印は他の寺院にも

ですが、観蔵院は豊島八十八か所霊場の八十一番に数えられています。ただ、非常にマイナーなので、霊場めぐりで来られる人はごくまれでした」

ところが、梵字の御朱印を書くようになってから口コミで人気を広がり、今では訪れる人が月に100人は下らないとのこと。書くのは小峰さんお一人で、1つ書くのに要する時間は約5分。

「多い月は200人近くお見えになりますし、私が不在にすることも多いので、全ての方に対応できるわけではないということをご理解ください」



有名な観光寺院などでは、複数の書き手がいるのが一般的ですが、住宅街にある檀家寺などは書き手が一人だけという所も多い

ため、必ず書いてもらえるわけではないのです。また、葬儀があったり、プライベートな住居を兼ねていたりという場合もあるので、観光寺院とは事情が違ふことに十分配慮しましょう。

ただ、御朱印帳に直接書いていただくことにはこだわらなければ、「書き置き」の御朱印が用意されているそうです。副住職の不在時などは、別の方が「書き置き」に日付を入れ、朱印を押してくれるので、それを御朱印帳に収めればOK。

なお、御朱印は販売されていますが、御朱印は300円程度を納めるのが一般的です。また、観蔵院では御朱印帳は販売していないので、あらかじめ用意して持っていくのが

を忘れないように！ 最近では大手百貨店などで御朱印帳コーナーもあるようですから、お気に入りの1冊を探してみてもいいかもしれません。

敬意を忘れず大切に扱って

御朱印集めは単なるスタンプラリーとは異なり、きちんとお参りをし、それなりの心構えでいただくものだということがわかりました。

「本来は信仰のある方のためというのを踏まえ、敬意をもって扱うことが大切。御朱印に書かれた仏名はご本尊のお姿ですから、乱暴に扱うことのないようにお願いします。もちろん、納経していただくのが一番良いですね。般若心経でも法華経でも、特に決まりはありません」

「大佛」の文字が珍しい、東京大仏の御朱印も人気!

書き置きの御朱印が用意されています。御朱印帳を預けて書いていただくことも可能ですが、受け取りまで約2週間かかるそうです。

■東京大仏(乗蓮寺) 板・赤塚5-28-3

